

人間市地区センター整備計画(素案)に対する意見等一覧表

3. 地域づくりに関すること		
NO.	意見	市の考え方
85	金子地区センターの基本とする対象区域に「根岸」があります。根岸の子どもは、金子の小・中学校ではなく東金子地区の小・中学校に通っていると思います。(もう、10年も前に根岸の自治会長さんが金子と東金子両方の行事に参加するのは大変だとおっしゃっていました) 新久小学校へ子どもは通学しているので、地域コミュニケーションを考えたら東金子地区センター区域の方が良いのでは。(もしかしたら将来、根岸の子どもは金子小・中学校に行くことになるのでしょうか。)	小・中学校の学区については、公共施設の再整備・再配置後の場所を考慮して見直し等の対応を検討してまいります。
86	昭和40年代、50年も前より二本木公民館を利用していますが、現在は班も一つ増えました。 その31戸(中神700~1200番地)の所属が宮寺・二本木地区センターにもかかわらず示されていません。このことはアリットでのマネジメント説明会にて指摘しまして訂正するとのことでしたが、今だ直されてません。※P32.34の地図、別表3の字別、それぞれ表示されてません。 宜しくお願いします。	公共施設マネジメント事業計画における地域区分は、市域にバランスよく公共施設を配置する目安として設定したものであり、現在の自治会、民生委員、公民館の区域、地域包括支援センターなどの区割りとは異なる部分があることは認識しています。 地区センターの対象地区については、地域の意向を踏まえて調整してまいります。
87	地区センターの区割は、小・中学校、包括支援センター、防災拠点、自治区、民生委員etc.の区割と交雑しない様、一元化し地区の住民が混乱しない様にすること。	地区センターの区割りは公共施設マネジメントにおいて示した地域区分に基づいており、小中学校の学区についても、この地域区分を踏まえ、施設の再整備再配置にあわせて見直す方針です。自治会や民生委員の区割りについては、現状の活動の継続にも関わるため、地域の意向を踏まえて見直しを検討してまいります。地区センター移行時は機能により区割りの異なる部分があり、地域によっては対象施設がわかりづらく申し訳ありませんが、地域の状況を踏まえ、将来的には一元化を目指します。
88	藤沢第一センターは八区の管轄で、包括は東藤沢の管轄にある東藤沢1・2丁目には防災の必要時にはどこに行っても良いのか。記載されている方法がおかしい。	地区センターの区割りは公共施設マネジメントにおいて示した地域区分に基づいており、自治会や民生委員、地域包括支援センター等、地区センター移行時は機能により区割りの異なる部分があります。
89	現在、自治会活動は一本化しているが、体育祭も含め、各地域に合った公民館活動、消防団活動の2分団化や、両地域の特殊性(歴史、神社、産業等々)にあった文化活動を考えると、センターの一本化よりも、是々非々の設定を住民目線で検討すべきである。	地区センターの運営や、地域づくりにあたっては、住民の皆様の意見を聞きながら、より良い地域づくりに取り組んでまいります。
90	人との関わりが面倒くさい、関わりたくない等が増えている現実に加えコロナ禍でメールやライン等がより普及し人と対面で話す機会が益々減り地域コミュニティの活動にも影響が出ている中、公民館、支所が併合し地域コミュニティの拠点として自治会活動の促進や自治意識の普及・促進業務を行っていただけるとの計画に期待いたします。	地域の実情を踏まえ、コミュニティの推進が図れるよう、総合的に取り組んでまいります。
91	公民化活動の基盤となる地域の状況はコロナの負の遺産として悪い状況にある。時間がかかるがこの改善に努めることが必要である。今後の地域づくりには不可欠であると思う。	コロナ禍で停滞したコミュニティ活動等の状況を踏まえ、より良い地域づくりを進めてまいります。
92	地域住民が利用しやすい公民館となることを要望します。	身近で利用しやすい施設となるよう、整備を進めてまいります。
93	地域づくりにおいては、市民と市と協働して住みよい街づくりを進める為に、自治会、地域団体、高齢者等を含めての街づくりが想定されているが、現実的には次代を背負う若年層に向けた取組が希薄に感じられるが、さらに、核家族化による住民の無関心が地域づくりへの課題の一つと思うがそれらへの働きかけや取組みが課題ではないのか。	現役世代や若年層に向けた取組みや、核家族化による地域内での人間関係の希薄化への対処も地域づくりにおける課題の一つと認識しています。
94	高齢化率が上昇中、自治会未加入が増加又、独居が増加の近年、コミュニティの推進を広め共助の推進策を前面に対策を考えるべきです。	地域コミュニティの拠点として、各地区の状況に応じた地域づくりを進めてまいります。
95	高齢化率が高まる中、支援はもとより介護保険への相談と成り立ち、地域資源を周知させて、自助・共助を意識するようにネットワークを密にする。	地域包括支援センターとの連携により、地域でささえ合える体制を強化していきます。
96	住民意識の「バラつき」があります。自助・公助・共助は自己生存の為の助けであり住みよいまちの実現に「協働」の意識を高めるよう奮起を願います。	ご意見として承ります。
97	地域づくりの拠点として地区センターの役割を果たすためには、その手足として役割を果たす地区コミュニティ会議が大事になるのでその体制づくりが大切。メンバーの選出には慎重に取り組んで欲しい。機械的な方法でなく意欲のある人材の雇用が大事。	地区コミュニティ会議の体制については、各地区の状況を踏まえ、ふさわしいあり方を検討してまいります。
98	現状の公民館運営委員会はその公民館の歴史もからんで●●ではないがセンター化にともない統一してその役割を定めて利用することを図って欲しい。新しいコミュニティ会議と共にこれを活用することが当面必要ではないかと思う。検討して欲しい。地区の現状を良く知っている人が多いので。	地区センター移行後の公民館運営委員のあり方については、現在の関わり方を踏まえ、検討してまいります。

99	住民が地区センターの運営に係わる組織(地区センター運営委員)の設定を想定しています。の内容について住民への負担が増す事になる懸念が考えられ心配です。期待すべき内容についての詳細を十分検討して頂き、場合によっては内容を見直すべきと考えます。	現在の地域団体間の連携を図るための会議体を想定しています。地区センターにおいて取り組む地域づくりには、地域住民の関りが欠かせないことから、持続可能な体制を地域の皆様と協議しながら構築していきたいと考えています。
100	地域の課題解決に向けて協議する組織の設置を想定とあるが、センター化は実現される内容であるのに、「想定」ではあまりにも現実味がなく本計画書には馴染まない表現ではないでしょうか。地域の課題解決に向けて協議する組織の設置を想定されていますが、そのような組織の必要性は地元からの要請なのでしょうか。もし要請でないならば、センターにその機能を設置する前に地元との協議が先決と考えます。	地区コミュニティ会議の体制については、各地区の状況を踏まえ、ふさわしいあり方を検討してまいります。
101	地区コミュニティ会議が2層協議体をイメージしているならば、当て職で構成員を集めてしまうと事案を検討する時に前に進みにくくなると思う。生活支援コーディネーターが中心となって構成員を選定し、参加者を集めていく方が後々動き易い協議体になるのではないかと。	協議体の形成については、地域の方と協議しながら進めていく考えです。地域福祉の充実に取り組むささえあい組織等の形成にあたってはCSW等の専門職の支援による体制構築が効果的と考えますが、地域づくりにおいては、地域活性化の視点も含めて、適切なあり方・支援体制を検討してまいります。
102	地区コミュニティ会議と地区センター運営委員について、もう少し分かり易い具体的な説明をいただきたいと考えています。よろしくお祈りします。	今後具体的な検討に入ることから、現時点では抽象的な説明となります。地域団体の関係者による会議を開催し、その中で地域づくりについて協議します。
103	自治振興支援機能に、自治会の支援とありますが、これは自治会からの要請によるものなのか、それとも行政側からの積極的支援なのでしょう。自治会にとっての課題は、会員の減少が最重要課題と思われそうですが、これについてどのような形で支援されるのでしょうか。(良い方策があるのなら、現時点で対応すべきと考えます。)	現在は主に地域振興課や支所が自治会を支援していますが、これを地区センターに引き継ぎます。今後も、自治会優待カード事業等により、自治会への加入促進を支援してまいります。
104	藤沢第一地区センターが現行の藤沢地区区長会の事務局を担う想定の内容 現状支所長が相当な努力を割いて事務を行っている(藤沢の悪しき前例という認識はある) この件も一律に一気にセンターの地域づくり担当が行うには無理がある。区民の協力と地区センター内担当者の理解を必要とする案件と考える。	ご意見として承ります。
105	自治会組織との関係 現状会員数減っている 理由:①活動に参加しなくても生活は成り立つ ②防災訓練など役立つとは思えない消火、ケガ対応のみ。避難時の場所、ルート不明。自宅待機。高齢者・障がい者など具体的展開なし。 ③会費が高く、見合うものが得られない(と皆さん思っている)	自治会の支援を含め、今後の地域づくりについては、社会状況等も踏まえながら適切なあり方を検討してまいります。
106	地域における連帯感の希薄化:“地域住民の参画を促進し、地域における課題の解決を図る体制強化”とありますが、どの様にして築いていくのか。どうしたら築けるのでしょうか。この問題も、現在の計画と相反する方向になるものなのでその工夫をお教えてください。	地区センターを地域の拠点として、地域内の団体の連携を促進し、地域の皆さんと一緒に考え、取り組んでいくことを想定しています。他自治体の事例等を参考にしながら、地域に合った手法を、皆さんと一緒に考えてまいります。
107	人間まちづくり戦略について 前回も質問として提出しましたが、入間市地区センター整備計画(素案)に対する質問を行う前に、入間市としての中長期的な元気な人間まちづくり戦略を理解したいです。 入間市の活性化・付加価値向上の戦略(入間市を今後どのように開発していくのか・・・)とその結果予測として都市計画(市街化、商業化、工業化の計画)により入間市の人口動態(人口減少、高齢化、少子化をどのようにコントロールしていくのか・・・)、市財政(こちらもどのように発展させていくのか・・・)、等々をどのようにお考えなのかを簡単にお教えてください。 今回頂きました別表を拝見しますと、特に大きな施策はなく、少子・高齢化が現状のまま進み、人口が自然消滅していくと内容に見えますが、正しいのでしょうか。 商業・工業地域を増やし、企業誘致が進み、若い世帯の異動が増え、人口動態や市財政が向上するとか・・・。是非とも明るい入間市開発戦略のお話が聞きたいです。	人口減少対策としては、令和4年3月に策定した「第2期入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「元気な子どもが育つまち」をテーマに、未来の主役となる子どもたちが元気に育つまちづくりを進めるための施策を掲げています。 詳細は入間市公式HPをご覧ください。 まち・ひと・しごと創生総合戦略並びに人口ビジョン http://www.city.iruma.saitama.jp/shisei/sougoushinkou/1008636/sougousenryaku.html (PDF化後にハイパーリンク処理予定)
108	地区センターの目標に地域づくりを掲げているが、地域コミュニティの推進に関する方策が示されていない。公民館機能については、公民館基本計画に添って社会教育を推進するとしているが、コミュニティ推進に関する計画が策定されていないのでは、公民館が地区センターに生まれ変わって、地域づくりがどのように推進されるのか理解することができない。地区センター整備計画に、地域コミュニティ推進施策に関する計画を策定する旨、明記すべきである。	地域コミュニティ推進施策に関する計画については、他自治体の策定事例や取組を参考に、策定の必要性から検討してまいります。
109	ポイント制の導入 良い企画でもなかなか参加まで一歩踏み出せない方に背中を押せるのでは。	地域内の交流の促進や地域コミュニティの活性化に資する取組を、地域の実情に応じて検討してまいります。
110	企画に地区・市内企業に参加してもらう。 パート等働いている方も参加しやすい。	

111	<p>金子の歴史遺産を常設展示して、先人の文化の継承と将来への発展のための文化の拠点をアピールする工夫をして欲しい。[例:旧道研究会の調査地図の展示など]</p>	<p>今後も地域住民が学んだことを地域に生かすことができるように社会教育事業の充実を図りつつ、伝統文化の継承をはじめとする地域文化の振興に努めてまいります。</p>
112	<p>各地区には独自に継承する文化や芸術活動がありこれまでの公民館はそれを守る役割を担ってきました。地区センターを地域振興課の下に置き市の直接支配下で縛りこした独自の活動ができにくくすることは、全く意味不明です。こうゆう考え方が日本をダメにします。子どもが育ちません。絶対にやめるべきです。</p>	<p>社会教育活動に属するものはこれまで通り、教育委員会の管理下に置きます。地域の文化や芸術の継承に関する活動は、地区センター移行後もこれまでどおり継続が可能です。</p>
113	<p>地区の歴史～資料として残すべき 博物館(アリット)の発足に伴い、大部分統合されたようだが地区住民には遠い存在になっている。新しい住民に地区の歴史を正しく伝えないとおかしいことになる。 例:金子中央という地名～「地区発祥の地」と思っている人多数。</p>	<p>公民館では地域資料の収集に努めていますので、継続してまいります。</p>